

7月は1学期のまとめの時期です。子どもたちがここまでの学級での生活を振り返り、それぞれのよさやがんばりを互いに認め合う場を大切にしつつ、これからの目標がもてるようにして、夏休みを迎えましょう。また、1学期の学級づくりについての成果と課題を明らかにし、2学期の指導につなげましょう。



<小学校>

子どもの心に届く褒め方・叱り方

どの子も「褒められたい」と思っています。

褒めるときのポイント3

1. 何がよかったか、具体的に褒めましょう。
2. 結果だけでなくそこに至るまでの過程も褒めましょう。
3. うわべじゃなく、本気で褒めましょう。

褒められると「先生は自分の事を見てくれている」安心感が芽生えます。それが先生に対する信頼感、信頼関係へとつながっていきます。信頼関係のある先生だからこそ、叱られた時も心に届くのです。

1. その子自身を否定しない。
2. 感情に任せて叱らない。
3. なぜ叱るのが伝わるように。



褒めることも、叱ることも、その子のことを思い、成長を促すために必要不可欠なことです。バランスよく褒め、叱ることが大切です。

「児童による、児童のため」の当番活動・係活動

□はつきりさせよう！当番活動と係活動の違い

- ・当番活動は、そうじ当番、給食当番、日直など学級の仕事をみんなで分担するものです。
- ・係活動は、ニュース係、バースデー係など、子どもがその仕事を見だし創意工夫するものです。

□話し合おう！「どんな係をつくとよいか」、「当番活動はなぜ大切なのか」

- ・子どもにとって必要感のある係は、その後の子どもの創意工夫を引きだします。
- ・働くことの意義を話し合うことは、自分の生活改善に努力しようとするにつながります。

□振り返ろう！自分のよさ、仲間のよさ

- ・学級活動コーナーなどの掲示や帰りの会などで、子どもの活動の発信し、フィードバックする機会を位置付けましょう。

すべての子どもたちが、
自分のよさに気付く活動へ！

<中学校>

生徒の心に伝わる褒め方・叱り方

まずは、日々子どもたちと触れ合い、声掛けやアドバイスなどを通して、信頼関係を築くことから始まります。

大事にしたい3つのポイント



タイミング	<ul style="list-style-type: none"> ・できたその時や、考えさせたいその時を逃さない。(生徒は今の姿を認めてほしい)
具体的な事実	<ul style="list-style-type: none"> ・頑張っている姿で認める。 ・具体的な事実のみで叱る。 ・以前のことを合わせて伝えない。
言い回し	<ul style="list-style-type: none"> ・固有名詞(「〇〇さん」)で、心を込めて伝える。 ・場や状況に応じて、時には大げさに、時にはつぶやくように。 ・叱る時には、くどくど話さない。

叱った後は、生徒の言葉や思いをしっかり受け止め、前向きな解決策と一緒に考えるなどフォローを大切に行いましょう。

職場体験活動発表会の工夫(例)

働くことの価値を見だし、これからの生活に生かす職場体験活動発表会を工夫しましょう。

【事前の活動】

ワークシート等を使い「働くことの意義」について、自分の考えをまとめる。

【本時の活動】

発表者の発表内容から気付いたことをメモしたり、小グループの話し合い活動を取り入れたりするなど、工夫する。

【事後の活動】

これからの生活の中で自分が取り組むことを意思決定する。

(例)「働く際には周りとの協力が必要です。生活の中で積極的に挨拶をしていこうと思います。」

「時間を守ることを常に意識して生活していこうと思います。」